



△郷土館（平賀邸）の書斎で、川西市の未来について語り合う磯部さん（左）と大塩市長（中央）と山本さん（右）

危機感を共有する

進む少子高齢化／希薄化する地域のつながり

温故知新 川西の未来を 考える

磯部 川西市の将来を考える上で、少子高齢化がどのようなスピードで進んでいくのか、また、それが将来にどのような影響を及ぼしていくのか不安に思っている人も多いと思います。

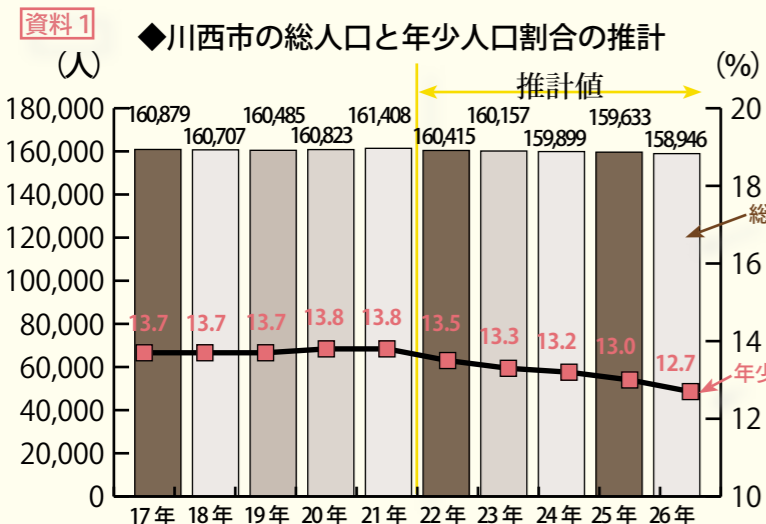
22年度厚生労働白書の資料では、日本の人口は16年をピークにほぼ横ばいが続いています。昨年の国勢調査では、わずかに増加しているようですが、約40年先には1億人を切るという予測で、世界で一番早く**高齢化**が進むといわれているんですね。

それに、もう一つ、合計特殊出

生率では、人口が増えるために一人の女性が生涯で生む子どもの数は2以上必要といわれていますが、1・37まで低下しています。人口が減少する中で出生率が上がらないのですから、人口に占める高齢者の割合も急速に高くなっていくんです。このような国全体の状況がありますが、川西市として今後どのようなことが考えられるでしょうか。

市長 川西の人口も、17年からずっと約16万1千人と横ばいが続いています（資料1参照）。問題は、この中身です。高齢化率が上昇傾向にあり、国の平均の23%を超えています。特に生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人口）の減少は、税収に影響がありますし、川西は個人市民税のウエイトが高く、法人市民税の割合が低いことから、財政基盤の強化というものがこれから大きな課題になります。地域によって高齢化率に違いはありますが、高い地域では約38%（資料2参照）のところもありますからね。

磯部 高齢化がかなり進んでいくということは、地域として、どういふところに影響があるかというところを、国や市の平均の23%を超えています。特に生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人口）の減少は、税収に影響がありますし、川西は個人市民税のウエイトが高く、法人市民税の割合が低いことから、財政基盤の強化というものがこれから大きな課題になります。地域によって高齢化率に違いはありますが、高い地域では約38%（資料2参照）のところもありますからね。



※住民基本台帳・外国人登録人口（3月末日）、21年のみ9月末日、22年以降は推計値
 ※年少人口とは、総人口における0歳以上14歳以下の年齢層人口の割合
 ※出典：次世代育成支援対策行動計画（後期計画）資料（22年3月策定）

資料2 ◆市内の主な大規模団地の高齢化率など
 23年3月31日現在

団地名	世帯数	人口	販売開始年	高齢化率
多田グリーンハイツ	6,227	14,786	昭和42年	36.7%
大和団地	4,758	11,423	昭和43年	36.8%
清和台	5,184	13,416	昭和45年	29.3%
萩原台	1,518	3,758	昭和47年	36.0%
湯山台	1,381	3,244	昭和48年	38.3%
市全体	67,070	160,907		25.2%

※世帯数・人口・高齢化率は住民基本台帳・外国人登録人口（3月末日）、町別人口集計表の町名（住居表示）から算出
 ※高齢化率とは、総人口における65歳以上の割合

あつたり、人と人のつながりがどんどん**希薄**になってきているということも、問題としてとらえる必要があると思います。情報化が進み、パソコンなどでいろいろなりとりが出来るようになって、直接人と会わなくても用が済んでしまうといったことも原因の一つだと思いますがどうでしょうか。

市長 その通りだと思います。我々が経験してきたいわゆるバブル時代は、モノに託した時代でした。その後遺症が出ているのではないのでしょうか。まちが元気になるためには経済の活性化も必要ですが、これからは地域に愛着を持ち、人と人の絆（きずな）づくりが必要になってくると思います。そのためには、次代を担う子ども**の教育**が大切だと思います。しっかりと教育をする。学力

だけでなく、お世話になった人への感謝の気持ちなどを育てる徳育を、さまざまな場面で培っていくとまちが元気になっていきます。そういう意味で、前向きな話があります。川西出身の植村花菜さんの歌がブレイクしましたよね。自分を見つめ直し、人に感謝する内容なんです。比較的若い年代の人があの歌に感動したことは喜ばしいことだと思います。



未来を切り開く

地域の個性に合わせて／郷土愛が育てる地域力



の職員も拾うけれども私たち市民もやります。一緒にやりましょうという「参画と協働」がひとつのポイントになってくると思いますが。

山本 自分たちの住んでいるまちが住みやすい方が良いに決まっています。地域で中心になって活動をしている人たちへは思いが伝わっても、なかなか地域全体に広がっていかないんです。

磯部 そうですね。地域の安全を守るために、子どもたちの登下校の見守りなどを地域の皆さんが

ただ、地域で中心になって活動をしている人たちへは思いが伝わっても、なかなか地域全体に広がっていかないんです。磯部 そうですね。地域の安全を守るために、子どもたちの登下校の見守りなどを地域の皆さんが

磯部 ささまざまな課題や問題点が出てきましたが、未来を切り開くための打開策というか、どのように解決していきたいか、どのようかなどをこれからお話ししていただきます。山本 先ほど言われていた地域に愛着を持つということは、

大切なことだと思います。どの世代ということを問わず、気持ちよく暮らしていくための工夫が必要です。ただ、同じ川西市内でもニュータウンと昔からのまちでは事情が違いますから、それぞれの地域に合わせて考える必要があります。

困っていることとか、便利なこととか違いますよね。例えば、交通の便がいいところ、悪いところ。若い世代が多いところ、高齢者が多いところなど、それぞれによって問題や課題は違っています。そういう意味では、先ほど地域分権元年という話がありました。そこにごみが落ちていたら、市の職員が拾えるというのではなく、市

ているんですけど、人任せになっている場合が多いのかなと思います。市長 今考えられることは、例えば、一定の権限と財源を地域に任せるといふシステムが必要ではないかということです。地域にはそれぞれに特徴がありますから。自治会などでは、防犯活動をきちんと考えて、自分たちの思いで防犯カメラを設置されていたり、会館の維持管理に国の予算を取ってきて、ソーラーシステムを付けていたりしています。この例では、申請の仕方などを行政がサポートしていますが、こういう土壌が地域に育ってきています。お互いに協力しながら地域力を盛り上げていく。このようなやり方が、これからの展望ではないでしょうか。

山本 私が住んでいるところの自治会でも、やっていることを知ってもらおう努力も必要だと思います。会員以外の人にも参加してもらえる活動も行っていますが、なかには自治会は煩わしいという人もおられて、難しいですね。市長 今、自治会に入っているのメリットがあるのと言われる人があります。その考え方を考えていただかないといけないと思います。すぐに見返りを求めるのではなく、自分たちのことは自分たちで考えて行動するという意識を、時間がかかっても広めていくことが大切ではないでしょうか。今回の震災でも、自分の利益のためではなく、人のために一生懸命やることが広く支持されています。そういうまちにしていきたいか。

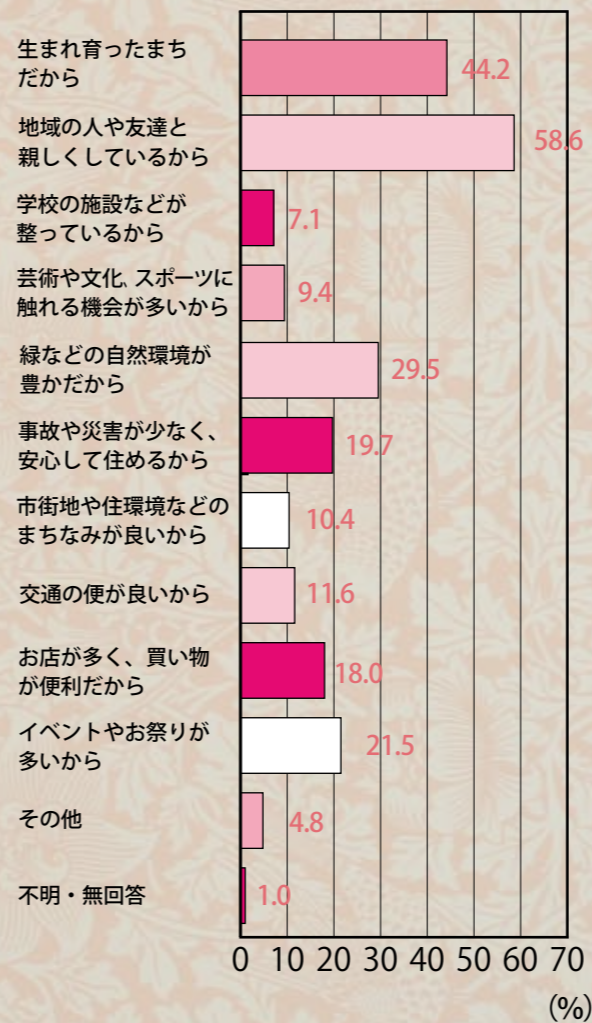
中学生への市民意識調査

市内の公立中学校に通う1～3年生から抽出した768人を対象に、23年1月に実施した調査結果の一部を紹介します。

◆「あなたは、川西市が好きですか」という問いに対し、「まあまあ好き(54.1%)」「好き(29.5%)」となっており、8割以上の中学生が川西市に愛着を持っています。

また、川西市を好きな理由としては、下のグラフのとおり「人や地域とのつながり」についての回答が最も多くなっています。

◆川西市を好きな理由



※25年からスタートする第5次総合計画策定に向けて、市民の皆さんに協力していただいた「市民実感調査(一般)」「市民意識調査(一般・中学生)」の結果を取りまとめました。6月1日(水)から市ホームページや市役所2階の市政情報コーナーで閲覧できます。詳しくは政策課☎(740)1120へ。

磯部 これからのまちづくりに向けて、背景などについてお話ししてきましたが、川西市ではかつてのニュータウンの高齢化が急速に進み、オールドニュータウンに変わっていく現状があります。これについては、どうでしょうか。山本 オールドニュータウンといいますが、今は、退職してまだまだエネルギーのある人が増えていますし、大和団地で取られたアンケート結果では、皆さん住みたいと思ってるようです。地域の高齢化が進んでも、不安

川西の現状を見る

元気な高齢者の増加／まちづくりの意識転換



に思うのではなく、自分たちの手で、住みやすい快適な地域にする覚悟が必要ではないでしょうか。今まで会社などで発揮してきた力を、自分たちが住んでいる家の

周りでも使っていたらいい。少子高齢化や生活形態の変化によってニーズが多様化している一方で、行政が対応できる範囲は限られています。磯部 次世代の人たちに、いろいろな地域活動に積極的に参加してもらわないといけないというのが大きな課題ですね。市長 そうですね。今年の施政方針では「地域分権元年」をテーマに掲げています。今、地域活動をしていただい

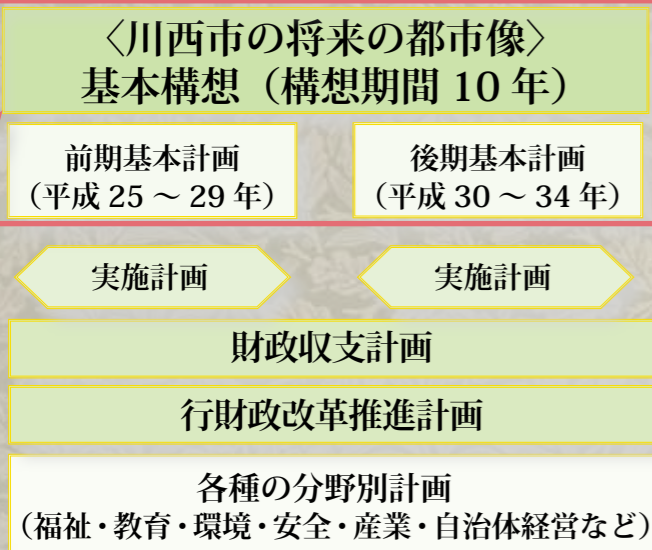
いる皆さんは意識が高いのですが、まだまだ、地域のことは行政が主体となってするものだという人も少なからずおられます。そこをどう変えていけるか。公共の担い手は、行政だけでなく、さまざまな主体があるということ。そういう意味からも将来を見たら、地域分権制度は必要になってくると思います。皆さん総論は賛成なんですけど、各論になるといろいろなお意見があります。今後、しっかりと議論していきたいと思えます。

特集 総合計画の策定に向けて

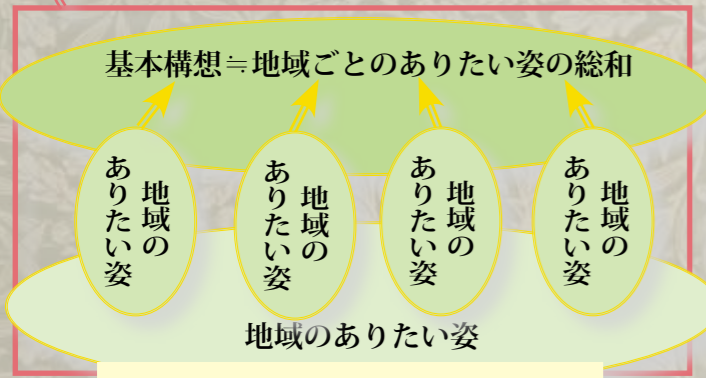


◆総合計画と分野別計画の関係

第5次総合計画



◆基本構想とありたい姿の関係



実現には参画と協働が必要



山本 それは、地域を好きになつてもらえれば解決するように思います。川西市はあまり特徴がないまちかも知れませんが、子どもころに遊んだ記憶とか思い出が、このまちを好きになつていくきっかけになるのではないのでしょうか。

市長 若い人も年配の夫婦も入つて、ゆつくりしたいと思うお店なんかを増やせたら、まちの重みというか品格が出る。素材はたくさんありますが、それが生かされていないと思います。もっと上手に使つて活用し、

ふるさと 地域に帰ると、夏祭りには帰ってくる若い世代も多いんです。自分が育つた所に愛着を持っているのだと思います。そういう人たちに、将来、川西に帰つてきてもらうためにどう仕掛けをしていくかということも一つですね。

品格 これから取り組むべきは、新しいものや古いものそれぞれをどう融合するかということで、川西の中身をもっともつと知つてもらつて、本当の意味でゆとりのあるまちにしたいと思っています。

山本 自治会長さんや住んでいる人は、まちをこうしたいとかあしたいとか、いろいろな想いを持っているのではないのでしょうか。そうした想いを生かして、まちのコンセプトという特徴を出していくことも必要だと思います。そういったことから関心をもつてもらえることもありますよね。

山本 この郷土館も歴史がある建物で、こういう雰囲気や食事ができたらいいですね。

市長 ここに限らず、川西には貴重なものがたくさんあります。それらに新しいものを融合させながらPRしていきたいです。

山本 今回、総合計画の策定にあつて、アンケートなどを取ることもありますが、市民の人に自分が好きな川西を書いても



川西らしさを創る

人と人の絆がまちづくりの原点

きっかけをつくり、できるだけ関心を持ってもらうことが必要ですね。

山本 私たちも近くの会館をつぶすか自分たちで管理するかで話をしたときに、関心が高まつていつになく人が集まつて議論をしたんです。なくしてしまうのは簡単ですが、やっぱり残す方向で役員みんな動いて良かったなあと思うんです。

行政 磯部 確かに、私も頑張つてくれていますが、私たち、ここに住む地域の人間も頑張りたいですね。各地域ごとにそういう魅力を探して、自慢し合える自慢大会をしたらどうでしょう。

山本 私たちも近くの会館をつぶすか自分たちで管理するかで話をしたときに、関心が高まつていつになく人が集まつて議論をしたんです。なくしてしまうのは簡単ですが、やっぱり残す方向で役員みんな動いて良かったなあと思うんです。

市長 2年前に行われた市民ミュージカル「川西の金太郎」は、2日目の方が多くの方が来場されました。これは、初日に観た人に感動を与えたから、人から人へどんどん伝わったんです。

山本 私たちも近くの会館をつぶすか自分たちで管理するかで話をしたときに、関心が高まつていつになく人が集まつて議論をしたんです。なくしてしまうのは簡単ですが、やっぱり残す方向で役員みんな動いて良かったなあと思うんです。

心の中に財産 こういう話をさせてもらうことで、順番に輪が広がっていくと思います。

市長 行政が使う言葉は、やっぱり堅いですか。制度や法律というものがありませんからね。その中で、どう伝えていくか。

磯部 確かに、いろいろな立場の人が顔を付き合せて話をすることが大事で、何かを企画して実行して「ああ良かったね」と最後ができることが大切です。

市長 行政が使う言葉は、やっぱり堅いですか。制度や法律というものがありませんからね。その中で、どう伝えていくか。

市長 その垣根を崩すのが難しくなっています。

磯部 「参画」とか「協働」という言葉も分かりやすくするとい

いかも知れませんが、

山本 施設や制度だけでなく、近所とか自治会、先ほどの「ゆるいネットワーク」など、いろいろな要素が積み重なって地域の魅力になるんだと思います。

原点 ちづくりの原点になると思

市長 次の10年の計画では、子どもたちが大きくなってまた住みたいと思えるような、分かりやすく魅力あるまちづくりをめざすものになればいいですね。

山本 実施や制度だけでなく、近所とか自治会、先ほどの「ゆるいネットワーク」など、いろいろな要素が積み重なって地域の魅力になるんだと思います。

磯部 そうですね。第5次総合計画は、市民としては分かりやすい目標が欲しいですね。

市長 いろいろなことをやっていますが、それを行政の中で話を済ませるのではなく、市民の皆さんにちゃんと理解してもらえないように、その仕掛けをしていかないと

市長 繰り返しになりますが、モノに価値観を求めるのではなく、これからは、人と人の絆がま

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持ってもらえるかということだと思います。

市長 いろいろなことをやっていますが、それを行政の中で話を済ませるのではなく、市民の皆さんにちゃんと理解してもらえないように、その仕掛けをしていかないと

市長 繰り返しになりますが、モノに価値観を求めるのではなく、これからは、人と人の絆がま

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

磯部 それですべてにつながりません。

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんがお互いに助け合っているんだという意識を、どう持って

